

授業改善書

科目名	心理学実験基礎（心理学実験）
担当者	小島 弥生

授業の概要

心理学の多様な研究手法のうち「実験法」について講義し、実際に錯視を用いた知覚実験、および、文字の意味と色の不一致情報を利用した認知実験の2種類の実験を実施、レポート作成を行い、データを分析した結果を基に論を立てる訓練をする授業である。実験レポートの作成を通し、「科学的な事実の報告」である心理学論文の書き方を習得することが心理学における実験実習の最終目標となるが、本授業は次の学年で履修可能な「心理学実験」へつなげる役割をもつ、基礎的な実習を含む授業である。

授業の問題点

心理学科の必修科目として1年秋期に履修時期が設定されている本授業は、実験室の定員・実験器具の数の関係から2クラスに分けている。昨年度までは月曜の3限・4限の2クラスであったが、今年度はPC教室の空き状況の関係から水曜2限と木曜2限に分かれることになった。曜日が分かれた今年度の授業評価アンケートでは、水曜2限の受講生の評定平均が今までの2年度に比べて低くなる結果（木曜2限の受講生の評定平均は昨年度とほぼ同等）になった。

学生の授業満足度

上記の問題点に関し、アンケートの各項目についての元のデータがあったことから、統計的分析を実施した。その結果、水曜クラスと木曜クラスで評定平均に統計的な有意差がみられた項目は以下の通りであった。

出席（水曜 4.48 < 木曜 4.88）、質問・発言（水曜 3.07 < 木曜 3.67）、
授業内容への興味・関心（水曜 3.77 < 木曜 4.38）、
毎回のテーマの明確さ（水曜 4.18 < 木曜 4.57）、90分の有効活用（水曜 4.20 < 木曜 4.55）、
得るもののある授業内容か（水曜 4.20 < 木曜 4.60）

この結果をふまえると、どちらのクラスも学生の“授業に対する満足度”そのものは大きな差はないが、授業内容に対する興味や関心、積極的な参加、授業内容に対する学生本人の意味づけ等、学生の態度が2つのクラスで差があり、それが全体的な水曜クラスの評定の低さにつながっていると思われる。

授業改善の課題と方策

授業曜日が異なるだけで教員の授業運営の方法は変化がないにも関わらずアンケート結果に差がみられたことについて、上述のように学生の態度が要因となっている可能性が高く、工夫をしようにも限界がある。本授業は平成29年度から開講されており、その時の反省点から平成30年度に授業の改善を行った結果、平成30年度の評価は全体的に向上していた。今年度も木曜2限クラスに限ってみれば昨年度とほぼ同程度の評定平均が得られているため、授業運営そのものは平成30年度と今年度を踏襲する形で来年度も担当していきたい。

今年度の受講学生は木2クラスだけではなく水2クラスの学生も含め、昨年度までの学生よりも「授業外学習をしている」という評定平均が高くなっていた。実際、実験レポートの作成にあたっては授業時間内で解決がつくものではなく、授業時間外にも相応の負担が必要になる。この点、今年度の学生たちは皆それぞれに努力をしていたと思われるので、その努力に意味づけができるよう、授業内容が心理学の学習にどのような意味をもっているかについてさらに伝達できるよう、講義での表現を工夫したい。

その他